

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100214		
法人名	株式会社ワムタック		
事業所名	コンフォートウェル焼津 (2ユニット共通)		
所在地	焼津市西小川2-9-1		
自己評価作成日	令和2年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 11月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コンフォートウェル焼津は立地条件が大変良く、施設東隣に公園があります。リビングの大きな窓からは朝日が入り、木々の緑や空が見え、日々の暮らしが心安らぎ、豊で穏やかな毎日を送ることができます。職員も優しい気持ちでケアに取り組むことができている。日常生活では、利用者様が四季折々を感じていただけるよう外出の機会を増やしています。また認知症進行予防プログラムとして、音楽を体で感じリズムで表現する音楽療法「リミック」を取り入れています。看護職員を配置することで、医療面での相談ができ、安心して生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅地の中にあり、近くは商業地域で隣は公園である。職員は理念に掲げている「笑顔で暮らす楽しい我が家」を目指して利用者を支援している。更には、利用者的人格を尊重しプライバシーを損ねない良い言葉かけや良い対応等の研修を行い、毎月目標を掲げて実行している。スピーチロックに注意したり、トイレ誘導をさりげなくしたりするなどにより、徐々に効果が現れている。家族と「連絡ノート」を交換しており、コロナ禍で面会が制限されている中で要望等をいただくツールとして役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で唱和し浸透させている。	「笑顔で暮らす楽しい我が家」を理念に掲げている。職員は家事をやりたい人、園芸をやりたい人等、利用者が好きな事を楽しくできるように支援している。	理念が書類の何処にも書かれていない。理念を表示することで事業所の利用者に対するサービスの取り組みが見えてくる。重要事項説明書、事業所の運営方針等に明記することが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加し、また地域の津波訓練では地域の方々に3Fに避難して頂き協力合っている。	町内会に加入しており、地域の防災訓練に数名の利用者と職員が参加している。津波訓練の際には保育園児が3階を避難所として利用している。事業所横の公園では、近隣住民等と言葉を交し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣保育園と親睦しており園児を招いたりまた招待されたり交流している。(ここ8ヶ月はコロナ禍により実施していないが、敬老会に園児からプレゼントを頂きました。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて構成員の方々にご利用者の様子、施設での取り組み、事故報告・ヒヤリハット等の報告を行い、毎回ご意見を頂いている。	運営推進会議には毎回数名の利用者と利用者家族の参加がある。出席者からの意見や要望に対し、事業所側がその場で回答をするやり取りが詳細に記入されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	焼津市地域包括ケア推進課・介護保険課の職員と連携を密に取り、ご指導を頂いている。	新型コロナウイルスの対応について、相談を密にし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。身体拘束廃止委員会を設置し定期的に施設内研修を行っている。玄関の施錠はしていない。	1階のビル入口は施錠していないが、2階と3階の事業所玄関は施錠している。3か月に1度「虐待の種類」等の内部研修を実施している。居室内の様子は確認できなかったが、換気のため窓は20センチ程度開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会のスタッフは、高齢者虐待について外部研修を受けて施設内研修で受講内容を伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者より研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。家族との連絡ノートを作りご要望を記入して頂いており、運営に関する内容をご記入頂ければ反映していきたい。	利用者や家族から意見箱を通してのコメントは届いていない。家族との連絡ノートで要望等があれば、その都度話し合っている。家族アンケートで「運営推進会議録で様子が分かりやすい」との声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議・施設内全体会議を行い、毎回ほぼ全職員が参加し、その都度意見や提案を聞く機会としている。またスタッフが業務改善提案をしやすいよう書式を用意している。	職員は管理者に対して話しやすいようで、普段通りの発言ができています。社会的なルールについてであったり、椅子の座り方の工夫についてなど、自分たちで考えた事を現場で実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の見直しを実施し、本年度より賃金規程の改定を行い、定義に沿った賃金体制を整え、スタッフの意欲の向上につながり働きやすい職場作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回法人幹部・管理者会議を実施し、各管理者は直接代表者に相談したり指示を受けている。コロナ禍により外部オンライン研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内で合同研修や勉強会・報告会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者情報を職員間で共有し、入所前から心身の状態を把握し、入所後は安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開催し家族の要望を伺っている。また必要に応じて電話にて日常の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の段階で色々な状況や要望を聞き出して、一番適切なサービスを紹介することを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に施設側から連絡することはないが、訪問者や電話連絡があれば取り次いでいる。	2～3人の利用者に、友人や親戚の方が訪ねてきてくれている。馴染みの場所に出かける事はない。	今まで馴染みの関係について個別に対応していなかった。新型コロナウイルスが落ちつけば、利用者本人や家族と話し合い、思い出の場所等への支援が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に心掛けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態や本人・家族の要望を取り入れた施設サービス計画書を作成している。	利用者家族から思いや不安、求めていることをよく聞き、職員間で話し合っている。外出に関しては、利用者同士の思いの違いに配慮してトラブルが起きないように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取り、また以前の担当ケアマネジャーと連携をとり把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に聞き取り、また以前の担当ケアマネジャーと連携をとり把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はないが、課題とケアの在り方について、サービス担当者会議にユニットリーダーも参加して、内容をユニット内会議にて介護スタッフに伝達してケアの方向性を決めている。	今まで自由に外出していた事や普段通りの生活に沿って施設サービス計画を立てユニット内会議で確認している。会議で課題やケアのありかたを検討して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	クラウド型ケア記録を使用し、全利用者様の記録等の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントがあれば参加してきたが、ここ8ヶ月はコロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療があり、内科医による定期的な健康チェックを行い、24時間365日医療連携している。	利用者全員が月2回訪問の事業所協力医に受診している。整形外科に受診している4～5人は家族が同行している。家族が付き添えない時は、職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを看護職員に相談している。看護職員がほぼ毎日来ているため適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。地域の総合病院の相談員と常々連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載されており、入所時に説明している。終末期を迎えた利用者様に対して事業所でできる限りの支援を行っている。	入居時より本人や家族の意向を確認し、医師や看護婦、職員で取り組んでいる。今年度は3人の看取りを行ったが、医療行為が必要な看取りはまだ可能な状態にはなっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施しており、施設内に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、施設内訓練や地域の防災訓練に参加している。コロナ禍により4月以降地域では行っていない。	防災訓練は夜間想定で行い、3階建てなので津波訓練は行っていない。近隣保育園の子供達と合同で実施する事がある。食糧品の備蓄は5日分用意されている。事業所の訓練に未だ地域の人参加がない。	運営推進会議の際に訓練の日を伝え、町内会長・民生委員・隣組等の方が事業所の防災訓練に参加してくれるように働きかけることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を年1回行い、職員に指導している。接遇委員会を設置して、毎月の目標を掲げてスタッフに良い言葉かけや利用者への良い対応を促している。	今月の目標は「丁寧語 です、ます、を使いましょう」である。つい馴れ馴れしい言葉使いで声かけや話をしてしまいがちなので、職員は気を引き締めて「です、ます、」の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースで日々過ごせるように取り組んでいるが、時間で区切ってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選択できる方には行ってもらっている。選択できない利用者は職員が選択して利用者に関きながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けができる利用者は少ないが、食事前の準備やおやつ作りで並べたり混ぜたり、盛り付けを行っている。	食事は特定業者の湯煎食品を利用しているが、事業所で味を整えることもある。ご飯とみそ汁は手作りで、別にもう1品調理している。追加の1品やおやつ・レクリエーションのメニューは、利用者と職員で決めて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。管理栄養士が低栄養にならないよう確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	弊社会長の歯科医師・歯科衛生士により指導・助言を受けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立を促している。排泄の意思がない方に対しては排泄のリズムを把握してトイレ誘導を行っている。	布パンツの人は3人で他の人はリハビリパンツを使用している。夜間は4人がおむつを使用している。トイレ誘導を嫌がる利用者もいるが、様子を見て対応を変えて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師・薬剤師にその都度相談して指示を受けている。飲食物の工夫はしていないが、毎日体操を行い、運動することを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が概ね決められており、個々の希望やタイミングとなっていない。入浴拒否がある方には希望のタイミングを見計らって支援している。	入浴時間は午前10時からで、不満を言う利用者はいない。拒否する時は介助する職員を変更してタイミングを見ながら支援している。入浴剤を使って楽しむ時もある。同性介助はしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。心穏やかになれるよう、就寝前には静かに過ごす時間を設けている。寝たくない方は寝たくなるまでフロアで職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、用法・容量の把握はある。看護師に相談して副作用についても理解できるよう指導してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人に聞いたり家族に聞きながら、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿うことはできないが、計画を立てて外出するようにしている。	一人ひとりへの個人的な外出支援はしていない。全員で出かける外出は、利用者と相談して工夫を凝らしている。桜の花の綺麗な場所や今流行りのカフェなどに全員で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。外出した時に買い物の機会があれば、買う物を選んで頂き、職員が渡したお金を支払ってもらうことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には、手紙を書いたり、電話をかけたり受けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。季節ごと壁画作りを行い、季節感を取り入れている。	温度調整をして一年中過ごしやすい室温を保っている。居間は整然とした様子で、皆が楽しく過ごせる空間になっている。利用者の家族が持って来てくれる季節の花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂のテーブルの配置を変えたり、必要に応じて席替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込み可能な物を説明している。使い慣れた物やあると安心できる物を持参してもらっている。帰宅願望の強い利用者は本人・家族と相談しながら気分良く過ごせるよう工夫している。	今まで使っていたテレビやたんすを持ち込んでいる。思い出の写真も飾っている。食事の食器は割れることを恐れて、個々の物を使っていないが、利用者の希望する好みの物を使うように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示すマークを貼ったり、理解できない利用者には声掛けて少しでも分かって頂けるよう工夫している。		